

# CU 三多摩 ニュース

仲間の皆さん  
明けまして  
おめでとうございます



CU 三多摩地域本部執行委員長  
宮田 清志

昨年、CU 三多摩地域本部は創立 10 周年を迎えた。祝うつどいには、およそ 100 人の方が参加してくださいました。感謝に堪えません。

世の中は、米をはじめとした物価高が止まらず、賃金は少し上がったものの、実質賃金はマイナス続き、国民の生活は大変です。

政治は政権党の政治資金規正法違反の問題など、お金に関する不正が後を絶たず、裏金問題の真相解明も置き去りにされたままです。

石破政権から高市政権に代わったものの、軍事費突出、国民の暮らしに対する目線は乏しく、さらに中国を挑発するかのような発言で、日中の外交問題も勃発しました。そして、議員定数削減では何の根拠も示さず、押し通そうとしています。「そんなこと」よりも国民の暮らしを考えてほしいものです。

CU 三多摩地域本部は、今年も労働者の駆け込み寺としての機能を發揮し、人に寄り添い。学習しながら問題を解決していくみたいと思います。そのためにも仲間を増やし、若い世代にバトンを渡すことができるよう運動を進めていきます。

組合員を増やして、働く者の権利を守るためにがんばりましょう。

今年もよろしくお願いします。

No.124 2026 年 1 月 1 日

コミュニティユニオン東京三多摩地域本部

〒185-0034 国分寺市光町 1-40-12 北多摩西教育会館内

☎・FAX 042-571-1166 / 090-2247-1166

Email:cu3tama@abeam.ocn.ne.jp

HP <https://cu3tama.org>

## CU 東京本部

### 2025 年秋の拡大月間成功で 一泊学習会開催



11 月 16.17 日の両日 CU 東京は、秋の一泊学習会を開催。三多摩地本から本部役員はじめ、宮田三多摩地本委員長、福田副委員長が参加しました。

「早期に 2000 人を実現し、未来の展望を拓く 3000 人の CU 東京へ」をテーマに行われた学習会冒頭、佐藤委員長は「六年前もこの地で学習会を開き大きな組合を作ると決意を表明した。その後少しづつ増えている。労働相談がとても増えて、どの体制で臨むのか、活動家、役員をどうするかなど、大きな課題になっている。今日を契機に、「良かった、大きくなったね」ということにしたいとあいさつしました。

続いて、屋代眞（全労連・新宿一般労組）さんが『個人加盟労組・ローカルユニオンの未来について』と題し、自身の新宿一般労組の結成に至る過程から、労働組合の変遷などについて講演しました。講演要旨は別項。

#### 分散会で交流

講演後分散会を行い、6 グループで講演の感想や各支部の取り組みなどを交流しました。

分散会では、「自分の問題が解決したらやめてしまう」「継続して増えない」「組合員が参加しやすい行事の作り方」等々、各支部の悩みなどが率

直に話され、交流しました。

自分の支部の悩みが、他の支部の悩みでもあること、その解決のためにそれが試行錯誤しながら頑張っていることに励されました。

二日目の午前中も分散会の続き、その後報告会を終え、散会しました。

## 講演『個人加盟労組・ローカルユニオンの未来について』

講演冒頭屋代氏は、「なぜ、個人加盟労組・ローカルユニオンが必要か」問いかけました。

日本の労働組合の多くが企業別・企業内組合であること。しかし、財界戦略によって非正規労働者が大半を占めるようになった

今日、非正規労働者の加盟できる労働組合は少なく、ローカルユニオンしかその受け皿はない」と解き明かしました。

そして、自身の新宿一般労組の結成への経過について、①1995年の財界の21世紀戦略「新時代の日本の経営」の内容と狙いの分析を行ったことが経緯。②この財界の21世紀戦略とどう闘うか、地域の労働組合の役割を検討した。③1995年以後の春闘は低額回答が続き、低賃金構造が作られてきた。④日本の労働組合の運動を振り返った。⑤今後の春闘の立て直し、労働組合運動の道筋も検討。常に全体の情勢の変化をつかみながら、職場から運動を構築するスタイルを確立することが重要だと考えるに至ったと話されました。



### 「労働組合のオルガナイザーを育てよ」

労働運動の再構築には、①情勢を見る目や理解する力を持った労働者を、職場の中にどれだけつくるかがカギ。②そのために自主的学習、産別や地域の学習会に職場から積極的に参加させる。③学んだことを実践へつなげ、労働組合のオルガナイザーを作ることが肝要だと提起しました。

### 「新宿一般労組で目指したこと」

新宿一般労組は①すべての労働者を視野に入れる。②企業主義を克服すること。③職場と社会に影響力を持つ労働組合を目指すこと。④単なる未組織労働者の受け皿ではなく、企業内組合の企業主義克服を進める意識改革をもたらすものとするという理念のもとに結成されたと話されました。

### 「未組織労働者の組織化のカギは組織労働者」

これまで、地域労組が取り組んできたことの教訓が作り出せていないことの一つに、未組織労働者を組織化し定着させる組織者、オルガナイザー、世話焼き活動家を作ってきたかという問題に突き当たるとし、その解決のために、地域労連の加盟組合の執行部を対象に協力組合員制度を作った。それは労働組合の権利や力を知っている組織労働者が、未組織労働者を組織化する核になってもらうという考え方だった。

介護職をターゲットに組織化をし、職場分会を作り、労働組合の基礎講座を開き、新宿最賃アピールなど組合員の参加も募り、具体的な行動に参加を呼び掛けているそうです。

### 「日本の労働組合運動の 再構築の課題は未組織労働者の組織化」

屋代氏は、講演の最後に「日本の労働組合運動の再構築の課題は、未組織労働者の組織化」だとして、次のように結びました。

ここ数年の春闘が賃金の改善に繋がっているようにみえるが、労働者の切実な要求は全体として実現していない。要因は二つとして、①政府の経済政策の失敗で、不況や規制緩和が相次ぎ、各企業の経営環境が良くなく、『支払い能力論』を強固にしていること。②労働組合の組織率が低下し、労働組合の社会的影響力と職場内影響力が低下していることを上げています。

そして、社会の仕組みを変えることは容易ではないが、労働組合の組織拡大強化は労働組合

の課題で、労働組合が本気でその課題に挑戦するならなしえない課題ではないと結ばれました。

## 参考 財界の21世紀戦略

「新時代の日本の経営」とは、高コスト体质となっている日本経済を如何に是正するかとして、

- ①年功序列と終身雇用制度を突き崩す
- ②有期雇用を当たり前にする。③雇用が流動化④低賃金労働者が大半に⑤社会保険制度の企業の負担率を減らす。
- 今も、財界は政府の尻を叩いて、残業規制の緩和など労働法制の抜本的見直しが図られようしています。これを許さない運動が必要です。

## 労働相談より①

### 定年後の再雇用（6ヶ月契約） 1回目の契約で不更新・雇止めに

Xさんは、Y不動産管理会社に長年勤務したベテラン社員でした。定年を迎えるY社に継続雇用を申し出ました。Y社が、6ヶ月の再雇用契約を提示、Xさんはやむを得ないと考え、再雇用契約を結びました。

ところがY社は、不動産オーナーの利益を守ろうとするXさんを問題視し、業務命令に従わなければ処分すると脅し、6ヶ月の再雇用契約を更新せず雇止めにしました。Xさんは、納得できず、組合に相談にきました。

組合は①定年後の再雇用契約の更新拒否は、高齢者雇用安定法違反であり無効。②Xさんは再雇用後に懲戒処分などを受けているわけではなく、不更新の理由がない。③①に加えて、Y社の就業規則は希望すれば65歳まで働くと規定しており、保護されるべき合理的期待があるとして、Y社へ継続雇用を要求し団体交渉を行いました。

第1回の団体交渉は、組合の雇止めは無効という主張に対して、Y社は幹部会で検討し①雇止

めを撤回し、契約を更新する。②そのほかの考えがあれば提示してほしいという回答を提示。

組合はこの回答を受けて、Xさんと検討。XさんはこれまでのY社の対応に不信感が強く、復職せず退職するとの意向を示しました。組合は、Y社に対してXさんの継続雇用に代わるものとして、Xさんが働いて得るはずだった賃金相当分を保障することを要求しました。

Y社は、難色を示していましたが、組合の粘り強い折衝を受け入れ、解決できる水準の回答を行いました。これをXさんと検討し、妥結しました。

## 旅で見た世界の事情－5

### 軍隊を持たないコスタリカ



コスタリカは豊かな自然環境や生態系に恵まれた「エコツーリズム先進国」として知られています。憲法に常備軍禁止を明記し、軍隊を持たない国としても有名です。

コスタリカ観光は、まず、砂の岬を意味するブンタレナスで下船。初日はリバーカルーズで大きなワニやいろいろな水鳥を見て、熱帯雨林をゴンドラでの空中遊覧で上から観た後、マヌエルアントニオ国立公園内にあるホテルに到着。ホテル上空では30キロのナマケモノを釣り上げることもあるという大鷲が舞っていました。

翌日は三時間のウォーキング。自然観察です。葉の裏に隠れている3センチくらいのコウモリや小枝にいる5ミリくらいの七色バッタ、赤い目をしているアマガエルなど、ホロスコープでなければ見つけることができない小さな動物をガイドが説明してくれました。

この公園では三匹のナマケモノに出会いました。日本では動かないのがナマケモノだと思われていますが、三匹とも何かを食べたり、動きまわっていました。皆で、私たちの方がナマケモノだと大笑いしました。

次の日、ロス・ケツアーレス国立公園で、幻の鳥「ケツアール」観察にトライしました。標高2300mから3000mが生息地で、防寒着が必要です。幻の鳥と言うからには、姿は見えずとも声は聞きたいと思っていましたが、なんと観ることができたのです。緑色の体で、赤い胸を持ち、肉眼でも確認できました。飛び去る姿も素晴らしい、写真を撮るのも忘れて見入っていました。昼食のレストランの庭先では多くのハチドリが蜜を求めて集まっていました。

首都サンホセで、軍隊を無くす宣言をした博物館(写真)やパリのオペラ座を模して造られた国立劇場や植物園などを観光しました。ディナーはサンホセの夜景が見える丘の上のレストランで、地元のダンスを見ながらの食事は今でも目に焼き付いています。

私たちのガイドは日本人で、コスタリカには300人が住んでいること、自分も現地で生まれ。ここで20数年生きてきたと話していたので、軍隊のことを聞いてみましたが、「今まで軍隊が必要だと思ったことは無い。」「小さいころからそういう教育を受けてきた。」と話してくれました。まさに小さい時からの教育は大事だと思いました。そして、平和でなければ旅行もできないと感じました。

宮田清志

## 人間の尊厳を守る社会を 全世代の連帯で築こう

去る11月11日、12日の二日間、第38回日本高齢者大会が、さいたま市大宮ソニックシティをメイン会場に開かれました。二日間で2540人が参加。

12日の全体会では、中央実行委員会を代表して、全日本民主医療機関連合会会長の増田剛氏が主催者挨拶。高市・維新反動政権による大軍拡と医療・介護などの社会保障抑制を批判。「若者

世代と高齢者が連帯して、個人の尊厳が守られ、充実した社会を作るために大奮闘しよう。」と呼びかけました。

畠中久明事務局長が基調報告。高市政権が狙う改憲や国会議員定数削減、社会保障改悪などを批判、高齢期運動の前進へ①一人ぼっちの高齢者を無くす運動を広げる。②国際高齢者人権条約の制定の機運を高める。③平和と民主主義を守るために市民と野党の共同を広げることを提起しました。

全労連の秋山正臣議長が来賓挨拶。芝田英昭立教大学教授が社会保障制度の歴史について記念講演をし、「軍事ではなく社会保障の充実こそ平和への道」と語りました。

前日の分科会では特別企画“いま豊かさとは何かを問う”の講演会に500人以上が参加。97歳の暉峻淑子埼玉大学名誉教授が「豊かな社会における人間の尊厳(憲法13条幸福追求権)の保障」を講演。“真の豊かさとは何か”を厳格に追及する姿勢は参加者に大きな感動を呼び起しました。

10講座9分科会では貴重な問題提起と活発な討論が行われました。来年の第39回大会は2026年11月10~11日、大阪国際会議場で開かれます。

糀谷 明

## CU三多摩地域本部

### 2026旗びらき

日時 1月11日(日)

PM1時~

場所 北多摩西教育会館

会費 1000円

★組合員の皆さんのご参加をお待ちしています。

執行委員の皆さん

当日 午前11時から同じ場所で、執行委員会を開きます。お忘れなくご参加ください。